

日本銀行におけるオルタナティブデータの利活用

日本銀行調査統計局 長野哲平

日本銀行は、このところオルタナティブデータのリサーチへの利活用を急速に拡大しており、その一部をホームページのオルタナティブデータ分析に関する特設ページで紹介している。具体的な分析事例としては、以下のようなものが挙げられる。

(1) 「リアルタイム問題」への対応

特に新型コロナウイルス感染症の拡大を経て、経済変動を早期に把握するため、民間のオルタナティブデータをモニタリングツールとして利用するケースが急増した。また、これらのデータを活用することで、高い精度でマクロ統計（鉱工業生産や輸出、個人消費等）をナウキャストしたり、消費者心理等をテキストデータから解析する試みも進展している。

(2) 高粒度データを用いた経済構造・市場構造等の分析

高粒度データを用いた、①マクロデータでは捉えきれない家計・企業の異質性を勘案した経済・金融構造の分析、②市場におけるリスクの偏りや脆弱性等を捉える分析などが進展。中でも、レポや店頭デリバティブの取引データについては、国際的な取り組みの一環として、わが国でも金融庁と日本銀行がデータを収集しており、それを用いた分析も多数公表している。

最近の諸分析からは、オルタナティブデータは、適切に用いれば、リアルタイム問題への有用な対応策となるほか、経済構造の変化や金融市場の構造等について新たな洞察をもたらしうることが示唆される。

ただし、データを適切にクレンジング・加工等していくには高度なデータ処理のノウハウが不可欠である。また、これらのデータを様々なクセを勘案しつつ解釈し、諸々のデータを組み合わせ分析の精度を高めていくには、経済分析等の知識と経験も求められる。オルタナティブデータ利活用の裾野を広げていくには、人材の育成に加え、関連する人材の交流も重要と思われる。また、（必ずしも経済分析を目的としない）民間で収集されるオルタナティブデータを安定的かつ継続的に提供して頂ける環境整備に向けた課題も少なくなく、議論を深めていく必要がある。